

# 涇江小学校 外国語・外国語活動研究通信

第7号

令和2年12月

今年度7回目になる外国語・外国語活動研究の授業を徳永 裕也教諭が行いました。前回に引き続き、体育館で授業が公開され、その後、協議会では、低学年の外国語活動について活発な意見交流が行われました。

## 研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者：1年2組 担任 徳永 裕也 教諭 TA:石光 萌乃

単元名：Brown Bear, Brown Bear, What do You See? (2/2)

指導講評：外部講師

〈授業の様子・協議会の様子〉



協議会では、研究経過報告と徳永教諭の自評があり、本時についての協議へと続きました。

### 〈研究経過報告〉

1年生は、コロナ禍のために7月に初めて外国語活動を行った。「数字」の学習に楽しんで取り組むことができ、よいスタートが切れた。9月からは定期的に外国語活動の時間が確保でき、本格的に始めた。日常的に挨拶など簡単な表現を英語で行うようにすると、自然と児童の口からも英語が出てくるようになった。

学習指導要領では示されていない低学年はどこをゴールにしたらいかが迷いながら進めてきた。前回の2年生の授業を受けて、低学年では「楽しむ」ということに力を入れるようにした。

1年生ということで、場所が変わると、いつもと違う環境に慣れない様子があった。前日の授業参観では、とても静かだったが、今日は、たくさんの先生が来たことでいつもより気分が高揚していた。児童は、概ね楽しんで活動していたように思う。今後も日常的に英語を使っていきたい。

### 〈授業者自評〉

1年2組は、普段はおとなしい児童が多いため、気分が盛り上がるよう声掛けをし、授業を迎えた。低学年部会としては、英語の学習が楽しいと感じ、意欲的に取り組んでいる姿を目指した。定着を目指すのではなく、英語を正しく言えるのは、外国語活動が始まる3年生になってからでよいと考えた。場の設定や活動する人数など低学年分科会で十分に協議を重ね、今回の形にした。

### 〈研究協議〉 ◎良かった点 △課題点

◎ネームカードを渡す場面で、英語の歌がBGMとして流れていて、外国語の学習が始まる雰囲気作りができていてよかった。やりとりをしながら渡していたところも、児童一人一人を大切にしていたよかった。

△ネームカードを渡す際、名前を呼んでから、What is your name? と聞く不自然さがあった。→ここでは、名前のやりとりを行わないということでもよい。

◎曲に合わせて、子供たちが体を動かしてのびのびと活動できていた。

◎絵本を読んだ後に出てくる動物を確認したとき、よく思い出して言っていた。普段、おっとりしている子もいきいきと活動していた。

△そこで教師が価値付けをできたらよかった。

◎児童が活動をととても楽しんでいた。

△ジェスチャーリレーを始めるのに時間がかかっていた。予め、順番を決めたり、それぞれの先生が担当するグループを決めたりしてもよかった。

△ジェスチャーリレーで英語でなくても答えを言いたい児童がいたので、ヒントカードがあると、もっと言えたように思う。

⇒全体でゲームを行う案もあったが、全員に参加意識をもたせるために少人数にした。答える順番を決めると、いつも決まった子がジェスチャーをすることになるので、今回のようなやり方にした。児童には、まだ指名されていない子を指名するようにと事前に話していた。絵カードがあっても文字が読めるわけでもないので、難しい部分がある。

## 〈指導・講評〉

### 指導主事より

コロナの中ではあったが、7回の研究授業でさまざまな工夫をされてきたのが伝わってきた。来年にどうつなげるのか、今後考えていってほしい。

### 指導主事より

今年、コロナの中、全学年の授業ができ、毎回、一緒に研究協議ができ、学力定着課としても協力して研究が進められてよかった。酒井先生には、毎回準備をいただき、研究が広がった。

### 外部講師より

- ・ネームカードを渡す時間はとてもよかった。先生に呼ばれて一人一人手渡しされるのはとてもうれしいものである。
  - ・Seven Steps では、One, two ~ seven.の最後の[n]音を、最初は大袈裟なくらいに、舌を硬口蓋にしっかりとつけて発音し、徐々に自然な響きにしていくなど工夫するとよい。また、7から逆に歌ったり、数字を一部ぬかして歌ったりすると活動の幅が広がる。
  - ・MacDonald などカタカナ語になってはいるが、日本語と発音が大きく異なる単語は、じっくりと聞かせ、日本語との違いに気付かせ、音の響きを楽しむようにするとよい。日本語と英語の違いに耳を傾ける土台を作るのが低学年である。歌のスピードを遅くして、発音に注目させるのも一つである。
  - ・子供たちがとても楽しそうにしていた。体をいっぱい使って楽しんでいた。
  - ・Brown Bear ~は全国で低学年～高学年までの児童が使っている。発達段階に応じた絵本の使い方がある。
  - ・その他のお勧めしたい絵本は、“BARK GEORGE” 動物の鳴き声(ジョージが飲み込んでしまった動物!)が出てくる本“Pete the Cat”くり返しが多く、色の表現も学べる。何事が起こっても前進していこうというメッセージのある本“We all Sing with the Same Voice”サミストリートで歌われた、多様性を認めようという歌。いろいろな地域と民族が出てきて世界旅行ができるような歌の絵本。→ 活用方法 絵カードを作り、机の上に広げる。歌を聴き、推測して、カードを取る。
- ☆歌の紹介 “One two three four five”クリスマスソング “O Holy Night” “Sing we now of Christmas” “The First Noel” “The Twelve Days of Christmas” 歌詞が難しいものもあるが、実は小学生はどれも簡単に歌うことができる。